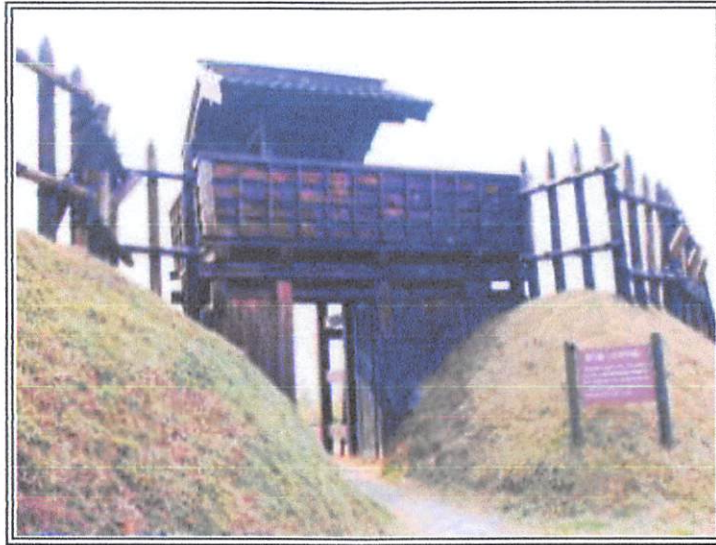


# 三河 東条城



所在地： 愛知県西尾市吉良町駁馬

遺 構： 曲輪、模擬櫓、模擬城門、土塁

形 式： 平山城

築城者： 吉良義継

築城年  
代： 不明



東条城は、現在は古城公園として整備されている。本丸の周囲には土塁が残り、大手虎口に城門とその脇に井楼形式の物見櫓が復元（模擬？）され、中世城郭の雰囲気の様子がよくわかる。



本丸物に建てられた物見櫓に登り、城の西方面を見ると、川を挟んで徳川家康がこの東条城を攻めたおり本陣跡が一望でき、攻城の時に西から南にかけて「三つ葉葵」旗端指物で埋め尽くされている光景が脳裏に浮かぶ。

東条城は、丘陵が平野部に突き出した先端部を利用して築かれ、後ろを山（丘陵）、前は沼沢（現在は水田）

となった要害で、丘の最高所に本丸を置き、北東に一段下がった所が、二の丸（八幡社の境内）で、ここにも境内を囲むように土塁があった。



(現地案内板より)

承久年間に三河守護となった足利義氏は、西条城（[西尾城](#)の前身）を築いて長男長氏に譲った。この長氏の系統が西条吉良氏となる。

義氏は、西条城の東に一城を築いて三男義継（東条吉良氏）を置いた。この城が東条城である。

応仁の乱には、西条・東条吉良氏は東西に別れ争い、東条吉良義藤は敗れ城は落城した。

戦国時代には徳川家康の三河統一の過程で、吉良義昭は家康に東条城を攻められ、東条吉良氏は滅亡した。

その後、東条吉良義定が、家康に召し出され、[吉良陣屋](#)を築きこの地に返り咲いた。（高家吉良氏）この義定の子孫が吉良上野介義央である。

**鉄 道：** 名鉄西尾線上横須賀駅～バス

**車：** 東名高速岡崎 IC～県道26号線～県道48号線～県道43号線

**駐車場：** 東条城古城公園の無料駐車場（約12台程度）を利用。



城門とその脇に井楼形式の物見櫓が復元（模擬）されているお城。

INDEX

[愛知県のお城  
一覧表へ](#)

HOME

[トップページへ](#)

LINK

[東条町のHPへ](#)

東海のお城

# 東条城

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

東条城（とうじょうじょう）は、三河国幡豆郡横須賀村東条<sup>[1]</sup>（現・愛知県西尾市吉良町駿馬字城山）にあった、中世の日本の城（平山城）。東条吉良氏・東条松平氏の居城<sup>[2]</sup>。

## 目次

沿革

脚注

参考文献

関連項目

外部リンク

## 沿革

築城年代は不明。一説によると、承久3年（1221年）に、足利義氏が築き、三男吉良義継を入れる。以後、義継を祖とする前期東条吉良氏と吉良尊義を祖とする後期東条吉良氏の居城となった。

城主の吉良氏は、戦国時代の義昭の時に永禄4年・同6年（1563年）と松平氏の攻撃に相次いで敗れて退城<sup>[3]</sup>、以後は東条松平家の居城となる。天正9年（1581年）城主松平家忠（甚太郎）が無嗣で病没し、家康の四男・松平忠吉が家忠養子となるが東条城には入らず、翌天正10年（1582年）には忠吉が駿河国沼津城主となり東条城は廃城となった。

城跡は現在「古城公園」として整備され、1992年（平成4年）に模擬櫓門と模擬櫓が復元されている<sup>[4]</sup>。



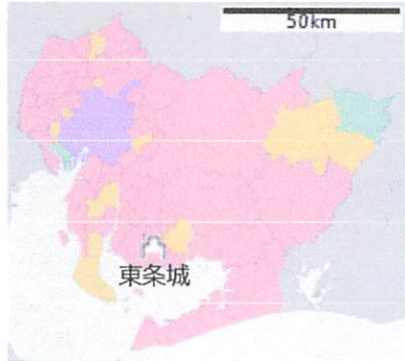
東条城  
(愛知県)

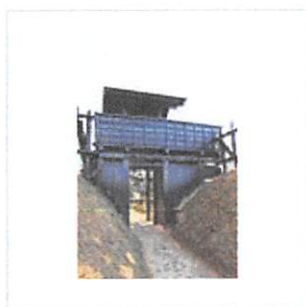


東条城主廓 櫓門・櫓 (模擬再建)

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 別名    | 東条城                       |
| 城郭構造  | 平山城                       |
| 天守構造  | なし                        |
| 築城主   | 足利義氏                      |
| 築城年   | 不明                        |
| 主な城主  | 東条吉良氏、東条松平氏               |
| 廃城年   | 天正9年（1581年）               |
| 遺構    | 曲輪、土塁、堀                   |
| 指定文化財 | 未指定                       |
| 再建造物  | 模擬櫓門、模擬櫓                  |
| 位置    | 北緯34度50分6秒<br>東経137度5分26秒 |

地図





模擬櫓門



模擬櫓

## 脚注

---

1. ^ 『角川日本地名大辞典23 愛知県』
2. ^ 大久保忠教の『三河物語』では「東祥」、成島司直『東照宮御実紀』巻二では「東條」と表記。
3. ^ 『三河物語』（大久保忠教（原著）日本戦史会編『三河物語』日本戦史会、1890年）では、今川氏から独立後の徳川家康は、西三河統一戦で今川方の西尾城・東条城に攻め掛けた → 「但シ、西尾之城と東祥之城ハ駿河方ナレバ、切々之御働キ成…」、また三河一向一揆の項目では、一揆勢が敗北すると城主の吉良義諦（義昭）はどのようにともできず家康に謝罪して東条城を出たとする。 → 「然間、義諦モナラセラレ給ハズ御侘事被成而、東祥之城ヲ下リサセ給得供…」。
4. ^ 一般社団法人西尾市観光協会 (<http://nishiokanko.com/list/shop/kojyoukouen>)

## 参考文献

---

- 大久保忠教（原著）日本戦史会編『三河物語』（日本戦史会、1890年）。

## 関連項目

---

- [中部の史跡一覧](#)
- [吉良氏](#)
- [松平康親](#)
- [善明堤の戦い](#)
- [藤波礪の戦い](#)

## 外部リンク

---

- 東条城 ([https://web.archive.org/web/20190330212507/http://www.geocities.jp/katoshiro3594/mikawa\\_no\\_shiro/kira/toujyo.html](https://web.archive.org/web/20190330212507/http://www.geocities.jp/katoshiro3594/mikawa_no_shiro/kira/toujyo.html)) - ウェイバックマシン (2019年3月30日アーカイブ分)

■ 国立国会図書館 近代デジタル・ライブラリー閲覧

1. 家康、西尾之城・東祥之城に働く (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/992777/68>)
2. 城主義諦、東条城を出る (<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/992777/76>)

---

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=東条城&oldid=77744071>」から取得

---

**最終更新 2020年5月27日 (水) 13:56**（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。